

全国図書館大会

10月19日（金）、20日（土）と、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた「第104回全国図書館大会」に参加しました。大会のテーマは「市民とともに成長する図書館～図書館専門職の力～」です。

大会初日は、テーマに添った**シンポジウム**が行われました。シンポジストは、以下の4氏です。

- 1 瀬戸内市のまちづくりと図書館～公設公営による図書館経営 by 瀬戸内市長 武久顕也氏
- 2 市民とともに成長する図書館（建築家として抱くイメージ） by (株)岡田新一設計事務所 柳瀬寛夫氏
- 3 アメリカにおける“地域を変革する図書館”の活動 by (株)パーソン・マーステラ 豊田恭子氏
- 4 図書館員が地域に飛び出してみたら分かったこと by 愛知県田原市中央図書館副館長 是住久美子氏

題名から想像しただけでもワクワクするような感じですが、話された内容も素晴らしいものでした。図書館と言えば本を読んだり借りたりするところというだけではなく、「まちづくり」に積極的にかかわっていきこうという提案でした。印象に残った言葉を2つ紹介します。

- ・図書館は何をもっているかではなく、何をしているかが問われる。（人に対して・地域に対して・人の一生にわたる学びに対して）
- ・問題を語るのではなく、希望を語ろう。

2日目は、**分科会**です。午前は「学校図書館」、午後は「児童サービス」の分科会に参加しました。どちらも「基調講演（報告）→実践報告→協議」という流れでした。少し紹介します。

<学校図書館>

基調講演では、次の3点。

- ・学校図書館は、「読書センター」「学習センター」「情報センター」「連携センター」の機能が必要。
- ・学校司書の職務は、「間接的支援（資料や情報提供のための準備）」「直接的支援（資料や情報の利用を促す支援）」「教育指導への支援（T・Tの一員、学校図書館の活用による教育活動の推進）」。
- ・調査によると、学校司書が配置されている学校の学力は高い。

実践報告は、杉並区の公立小学校と長野県の高校の学校司書の実践報告がありました。どちらも、学校の教育活動に積極的にかかわり、授業の充実に大きな貢献をしていました。十日町市でも、ようやく学校司書を配置する予算を要求していきこうという動きになりました。期待したいです。

<児童サービス>

- ・児童サービスの基本は「魅力的な書架を作ること」…そのためにはまず蔵書を知る。
- ・「選書リスト」を使用し、選定会で本を選ぶ。
- ・「おすすめのリスト」を作成して配布する。
- ・魅力的な児童室を作る。…展示の工夫

大会を通して、司書の役割は大きいと感じました。学校での図書館担当の先生方は、日々の授業があるので、大変忙しい状況です。その中で、図書館にかかわる仕事を進めるのには、限界があります。もっとやりたいと考えても、現実には厳しい！ ぜひ、学校司書の配置を！ と願います。

